

韓国の七奪を論破⑦

日 韓 の 真 実

(7) 「資源を奪った」への反論

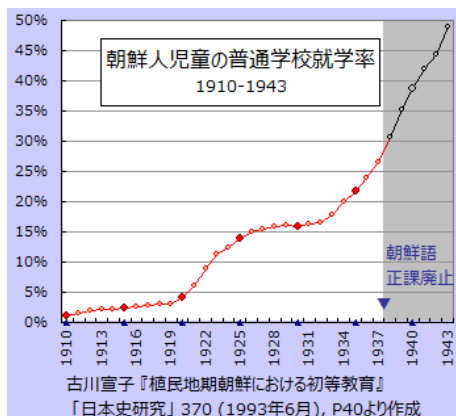
そもそも日本の朝鮮統治は「植民地支配」ではない、嘗ての欧米の宗主国は、植民地から資源を略奪し、製品を売りつけ自国の繁栄を図ってきた。植民地の人民は笞（むち）で叩かれ、家畜同然に使われ人間としての扱いを受けられぬ状況も多々見られた。

では朝鮮で日本は西欧と同じことをしたのだろうか？ まずGDPの80%も奪えば、その地域では即刻、餓死してしまう。西欧の生かさず殺さずの搾取でも最大で50%であると言われている。日本は反対に朝鮮人の命を増やす為に努力していた。韓国の中学校の歴史教科書には「日帝は、金・銀・タングステン・石炭など産業に必要な地下資源を略奪した」と書いてある。実際には、当時の朝鮮半島にはそれほど魅力的資源はなかった。

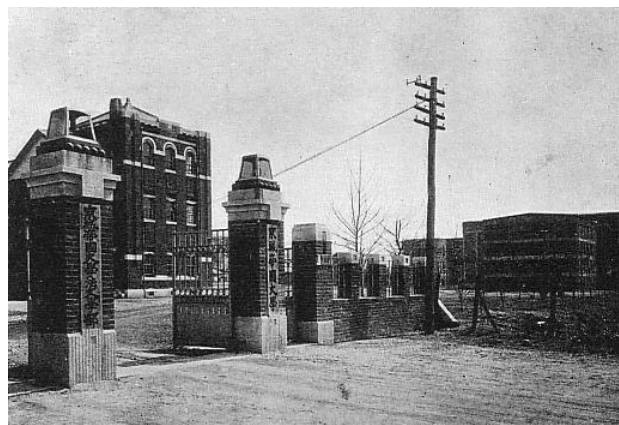
例えば、石炭は無煙炭であり、オンドル部屋を暖める為に練炭を作るのが主用途であり、金・銀・タングステン日本の会社が膨大な開発費を投じながら、結果的には大赤字であった。むしろ東南アジアから輸入した方がよほどの安上がりであった。

金・銀に於いては朝鮮からの開発輸入の実態を中川八洋（やひろ）氏が「歴史を偽造する韓国」の中で次のようにその数字の実態を明らかにしている。

「朝鮮の対日移出高は1910年～1936年迄の27年間で6億5,572万円であった。1937年以降の移出統計はないが、金の産出量の統計があるので計算すれば約6億8,400万円である。即ち朝鮮が手にした日本への金の売却代金は（1936年までは銀も含む）は13億円強である。これに日本が負担した鉱山開発費の数億円を加えると、朝鮮は金に関して日本にすべて負担させたのであり、金に関して、日本を『略奪した』と詰問したいのであれば、仮に当時の1円を1万円とすれば、『20兆円』を日本に返還したあと『口』にすべきであろう」、、、、と。資源の収奪どころか、日本に逆に、朝鮮近代化の為に膨大な『税金』をつぎ込み、鉱山を開発し、産業を育成し、人材を育てた。朝鮮は収奪の為に植民地ではなく、敢えて言えば、当時の北海道と同じように『内地レベル』まで『引き上げる』ための『拓殖地』だったのである。



就学率推移



京城帝国大学

当時の朝鮮は東学党の乱で田畑は荒れ果て、わずかの税収も地方官吏が横領し国家破産寸前の状態であった。そのような状況の中で大韓帝国が日本の指導下で1906年(明治39年)に初めて作成した国家予算は748万円であった。しかし当時の朝鮮を近代化するためには、どう試算しても年間3,000万円はかかる。日本は朝鮮に独力自力で近代化を達成して欲しかったが、近代化など夢のまた夢、物理的に不可能であった。地政学上、朝鮮の近代化による自立を望む日本は、やむを得ず朝鮮を保護国として近代化の為に、多額の金をつぎ込むことになってしまった。第三次協約を締結した1907年より1910年迄、毎年立替金、直接支援金を合わせて2,000万円~3,000万円を日本政府が補助している。

※立替金=大韓帝国政府分を日本人の税金から無利子・無期限で立て替えた金額。

※直接支援金=司法・警察など日本が直接受託した分へ、日本政府が直接支出した金額。

これを合わせると、日本の国家予算の20%を超えたこともある。

日本の保護国となった事を韓国は現在も非難するが、保護国となったことで日本から莫大な支援金が入り、近代化への道が開けたことを忘れてもらいたくない。また日本併合後最初の10年間は朝鮮人の所得税は免除しており、その分朝鮮半島在住の日本人が重税を負担した。このような真実を日本人も韓国人も認識して欲しいものである。朝鮮に対する日本よりの支援累計は、今の金額にして63兆円にもなる。1日当たり、なんと45億円を日本人の税金から支払った

ことになる。明治天皇は1910年臨時恩資金3,000万円を与えられている。それ迄の大韓帝国の借金累積2,651万円が棒引きになったことになる。これは日本から1910年に持出し金額2,500万円は含まれていない。

日本の朝鮮への財政負担

〔併合前〕 (表1)

年 度	日本の立替金*	日本政府の直接支出	計
1907	177万円	約2500万円	約2700万円
1908	526万円	約2900万円	約3300万円
1909	465万円	約1600万円	約2100万円
1910	290万円	2242万円	約2500万円
計	1428万円	約9000万円	約1億400万円

※旧韓国政府の歳入に計上

〔併合後〕 (表2)

年 度	公債・借入金	補充金	計	朝鮮人自らの税金と年納借入金
1911	1000万円	1235万円	2235万円	1330万円
1912	1490万円	1235万円	2725万円	1468万円
1913	1110万円	1000万円	2110万円	1562万円
1914	764万円	900万円	1664万円	1854万円

朝鮮の歳入の2/3を日本が負担していたことがわかる

例えば、東西統一後のドイツはドイツ連邦政府の大幅な財政赤字となり、いまだに旧東ドイツ地域はドイツ経済の重荷になっていることを考えれば、工業化の途についたばかりの日本が、産業基盤の全く無い朝鮮を抱え込むことは日本国家の存亡にかかわる一大事であったことは想像に難くない。

実は大韓帝国時代に鉄道建設という大事業を日本の資金で行っている。1900年(明治33年)京仁線(ソウル—仁川間)を皮切りに、ソウル—釜山間450kmの完成、さらに1906年には京義線(ソウル—新義州間)490kmに至る南北を縦断する鉄道幹線の完成を見る。日本の投資額は合計6,638万円、現在の6兆6千億円の日本人の血税が、朝鮮の鉄道建設に使用されている。当時の両班は往復(馬で)二ヶ月近く要したものが往復三日で可能となった。この鉄道建設は朝鮮近代化に大きな役目を果たしたのである。



大正末期の朝鮮半島路線図

その他水力利用としての大型ダム建設（当時世界第2位の発電量）。電気技師の久保田豊や、日本窒素の野口遵（したがう）等によるダム建設・工業化を推進する為の莫大な資金援助がなされた。朝鮮に対する農業発展・工業発展等の近代化貢献の為の民間企業投資金額は今現の3兆円に達した。その結果朝鮮北部（北朝鮮）は「一大工業地帯」に発展したのである。



水豊ダム。湛水面積は琵琶湖の約半分。戦後、膨大な富と電力を現在の北朝鮮にもたらしている。

朝鮮や韓国が主張する「植民地」ならば、本国で作った製品の単なる市場に過ぎないか、製品を作る為の資源搾取に過ぎない。日本企業がこれだけの巨額の投資を行って生産の拠点を作ったことは、朝鮮半島が日本の単なる「植民地」でなかった何よりの証拠であろう。

朝鮮半島に膨大な資金をつぎ込んで朝鮮の経済発展に貢献した日本が「朝鮮から資源を収奪した」と「非難される謂れ」は決してなく、反対に現在の発展に貢献したことに感謝されるべきであろう。それにしても、恩とは言わないが真実に感謝できず反日教育で国民を騙し、嘘にまみれた歪んだ歴史教育を行う儒教国家、韓国の民族性に怒りより憐れを感じる。隣国ではあるが、民族性が驚くほど違う現実を見ると、私は国の歴史というものの重さを感じ、日本に生まれたことを神に感謝した。

平成30年3月18日

志雲会代表 有馬正能